

『ハルコ』『マリアのへそ』野澤和之監督作品

61ha 61ヘクタール きずな 絆

プロダクションノート

ねえ、あなたどう？

よかよ。

瀬戸内海の小島

ハンセン病に翻弄された人生

寄り添って生きる夫婦の愛の物語



1. 「61ha 絆」のはじまり

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

面積わずか 61 ヘクタールの島。

そこには、寄り添いながら逞しく生きる夫婦の珠玉の愛が溢れていた。

在日 1 世の母と子の葛藤を描いた「ハルコ」。

マニラの路上の子供たちを描いた「マリアのへそ」。

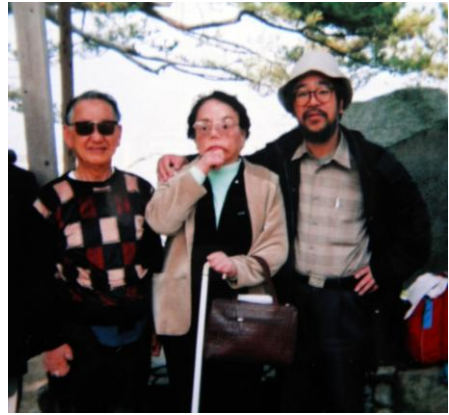
そして、「61ha 絆」。

ハンセン病に翻弄された夫婦を描いた野澤和之監督の

新作ドキュメンタリー映画です。



このドキュメンタリー映画は、平成 17 年の暮れ、香川県のハンセン病国立療養所・大島青松園を訪れた野澤和之監督が東條高・康江夫婦に出会ったことで誕生しました。それまで野澤監督は、群馬県にあるハンセン病国立療養所・栗生楽生園に通い、ある元患者の方と交流を深めていました。その縁で‘ハンセン病’というキーワードで、ドキュメンタリー映画を撮りたいと考えていたものの、決めかねていました。



そんな時に会ったのが、東條さん夫婦です。「ハンセン病という病を突き抜ける作品にしたい。」と願っていた野澤監督は、東條さんの夫婦のやりとりや助け合う姿をみて「これだ！」と作品創りの決断をしました。

《ハンセン病と大島青松園》

ハンセン病は、らい菌によって起こる病気。治療法が確立されている。日本では 1907 年の法律の制定から 1996 年に廃止されるまで患者の隔離政策が続いた。現在、約 2300 人が 13 か所の国立療養所に暮らす。香川県の瀬戸内海の離島にある大島青松園もそのひとつ。島までは高松港から船が一日 4 便運航している。(無料) 所要時間は、約 20 分。園内には、病棟、リハビリテーション施設、療養生活のために個室、公会堂、売店、郵便局などが完備されている。島内見学は自由で予約すれば園内の宿泊施設に泊まれる。1909 年の発足当初は、患者定床 200 床、21 名の職員が配置されたが入所者の増加に伴い最大時には 860 床となった。2012 年現在は、高齢化が進み 85 人が暮らしている。



2. 完成までの7年の歲月

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

<監督 野澤和之 >

ドキュメンタリーの善し悪しというか、味というのは、撮る人と撮られる人との関係と距離をどう構築するかで決まると思う。「61ha 絆」では、私たちの日常では見慣れない病・ハンセン病と普遍的な夫婦の愛情のあり方というふたつの座標の中で関係性と距離感をどうとるかを考えた。どれがベストなのか、カメラマンと議論を繰り返していた



のだが、撮影をはじめると答えはすぐに出た。夫婦ふたりの日常の空間にいると私たちはとても素直に穏やかな気持ちにさえなれるのだ。カメラマンは自然体に回し始めていた。出会ってから半年後、カメラと御夫婦との一番素直で自然な距離が生まれた。

しかし、それはドキュメンタリー完成までの序章に過ぎない。日常を撮りながらも、どんな物語を紡ぐことができるのか、試行錯誤しながら、撮影を続けてきた。平成24年の公開まで7年かかった。完成できて本当良かった。ドキュメンタリー完成までは、精神的な強さと運がなくてはできないと本当に実感する。東條さんご夫妻と完成まで応援してくれたスタッフには、心から感謝したい。そして、見てくれる皆さんにも。

(監督プロフィール)

新潟県出身。立教大学文学部大学院修了 文化人類学専攻

記録・文化映画の助監督をへてテレビドキュメンタリーの世界へ。文化人類学を学んだ体験から文化・社会の周縁に在る人々を描いた作品が多い。在日1世の家族を描いたドキュメンタリー映画「ハルコ」は、全国公開され話題となった。マニラの路上の子供たちを主人公にした映画「マリアのへそ」両手両足のない中村久子女史を描いた「生きる力を求めて」

＜撮影 堀田泰寛＞



監督は撮影に向けての現地調査で、「二人を訪れる度に、心が洗われるような、穏やかな気持ちになる、それは何だろう？」と話していました。

私はこれをレンズの中に探るのがテーマだ、と思いました。差別と偏見の中でハンセン病と闘い、茨の道を歩いて来た東條高さん、康江さん夫婦、その逆境を乗り越えた二人の間には何があるのか、私はカメラでそれを探

らなければなりません。私はレンズの中に二人を見つめ、その日常にカメラを回し続けました。そして、気が付くと、私は無心にカメラを回している自分に気が付いたのです。

（カメラマンプロフィール）

平壤生まれ。千葉大学工業短期大学部写真科卒業 日本映画撮影監督協会/J.S.C.所属
劇場公開映画からドキュメンタリーに及ぶまで幅広く活躍。人間の深さを表現する撮影には定評がある。主な映画作品「日本の悪霊」「ヒポクラテスたち」
ドキュメンタリー作品「SAWADA」「味」「センスオブワンダー」「靖国」

3. 歌好きな東條さん夫婦

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

【歌好きな東條さん夫婦】

東條高さんは、昭和5年生まれ、康江さんは、昭和8年生まれ。2012年で82歳と79歳になります。今もふたりとも青松園で元気に暮らしています。

歌の上手い高さんは、最近「千の風になって」をマスターしました。康江さんは、淡谷のり子の「別れのブルース」をもう一度きちんと練習する予定だといいます。

歌は「61ha 絆」の大事な要素となっています。若い時に、療養所のバンドメンバーだった高さん。まだ目が不自由でなかった康江さんは、島内のコンサートの度に観客席でステージの高さんを見ていました。カラオケ大会で、ふたりが同じステージで歌い、応援

しあうのは、長い人生を考えると運命的なシーンと言えます。「歌には、人を結びつける力がある」と映画が示唆しているようです。



4. 製作エピソード

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

7年をかけたこのドキュメンタリー映画には、沢山のエピソードがあります。

<スタッフの食事>

園内の撮影で苦勞するのが食事です。宿泊施設に泊まりながら撮影を進めるのですが、美味しくて栄養があり、しかも経済的な食事をどうしたのでしょうか？下記の方法で切り抜けたといいます。①高松市内から食料をリュック一杯に買い込む。②園内にひとつだけある食堂を利用（定休日あり）③島の売店から調達（定休日あり）④そして、極めつけは、東條さんご夫婦と一緒に食事。①から④を組み合わせて、素晴らしい撮影ができたわけです。



<四国お遍路さん>

島内には、四国八十八箇所のお寺の名称と仏像が刻まれた石像が建てられています。

四国遍路したくても島から出られず、願いが叶わなかった人々の思いが込められています。小さな八十八箇所巡りです。

<タイトル>

この映画のタイトル決定までは、難航しました。企画段階では「島の愛の物語」でした。編集が終わりいよいよ最終決定の段階になり、みんな頭を悩ませていました。そんな時中村プロデューサーの監督への質問。「ところで、この島の広さはどのくらい？」61ヘクタールは、この一言で決まったのです。



5. 康江さんの言葉

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

【康江さんの言葉】

映画の中で語られる東條康江さんの言葉はとても印象深い。康江さんの歩んできた人生と独特な感性がにじみ出ています。

『3年経ったら治るからと、いけいけと…。』

みんなそうやって、嘘言われてたまされて入れられたわけや。』

『哀しみの極みの時は、涙が出ないというけど本当だなと思った。』

『夫は愚痴も言わずに、私は捨てられもせずに、今日まで来れたんですよ。』

『お婿さんが一所懸命働いてラジオ買ってくれて、本当に楽しかった。』

『感謝 感謝です』

『行くぞ、この壁を乗り越えて行くぞ。』

6.短歌の力

61ha 絆 PRODUCTION NOTE

【短歌の力】

15歳で女学校中退で、大島青松園に来た東條康江さんは、これまでに2冊の短歌集を出しています。短歌は、映画の中で効果的に使われていますが、他にも沢山の素晴らしい作品があります。

わが歌う「別れのブルース」に 生バンド 合わせて奏で くれしを思う

夫と腕 組みて歩める 山の道 我は息をば 切らしつつ行く

初生りの なすび二つを 我の手に 夫はのせてくれ 紫匂う

塩ふりて 食ぶる胡瓜の 青清し 生かされいる 今日の幸せ

介護婦の 手を借り夫の 下着など 濯ぎて「でも妻」の 役を果たせり

盲人と なりたる我を いたわりて くれる夫との 二人三脚

【監督からのメッセージ】

「ねえ、あなたどう?」「よかよ」 東條康江さんと高さんが交わす会話です。ふたりの互いを思いやる気持ちの全てが、この短い言葉に凝縮されているようです。「61ha 絆」を見て、こうしたみんながもっている本当の優しい気持ちを思いだして頂ければ幸いです。私も康江さんみたいに、ありがとうと言うしかないかなあ……。そんな気持ちです。

野澤和之

キャスト： 東條 康江 東條 高

スタッフ：

監督・脚本	野澤和之
プロデューサー	中村孝
脚本協力	さらだたまこ
撮 影	堀田泰寛 (J.S.C.)
撮影技術協力	手島康裕
編 集	石原肇
E E D	辻浩一
M A	小松勇樹
音 楽	KAZZ
音響効果	合田享生
インディケーター	斉藤剛
演出協力	中原想吉 平井将人
クリエイティブプロデューサー	渡辺良樹 近藤富士夫 吉田正紀 坂田ひろみ
ラインプロデューサー	細谷義久
特別協力	山本卓也
スポンサー	新堂史夫 臼田宏
宣伝プロデューサー	鈴木康元
宣伝美術	堀江京子

2011年/日本映画/カラー/16:9/ステレオ/97分

製作・配給 インタナショナル映画株式会社 ©2011年「61ha 絆」製作委員会

- 公式WEBサイト：www.impc.jp/61ha/
- facebook：www.facebook.com/61hakizuna
- twitter：[@61hakizuna](https://twitter.com/61hakizuna)